

こやのせだより

「あきらめない！」
少しを、次々と、時間内に
「できるを重ねる」

自信

平成30年5月9日
北九州市立木屋瀬小学校
校長 瀧上 正彦

児童が全員集合、歓迎集会！

新1年生の入学を祝い、初めて体育館に児童全員が集まり集会活動が行なわれました。集会は運営集会委員会野尻児童が、朝や昼の休み時間を使って毎日準備をしてくれました。



ひな壇に座った1年生は、一人一人名前を呼ばれて、元気に「ハイッ！」と返事をして立ち上がり礼をしていました。また、プレゼントに「友達になるために」を歌ってくれました。ステキな歌詞で感動しました。木屋瀬小の大事な一人としてこれからの成長を期待しています。



◎ 子ども読書の日

4月23日は全クラスで、読書に親しむ活動が行われました。読書ボランティアの皆様が各クラスを周り、読み聞かせをしてくださいました。ありがとうございました。



今年の高校入試の問題は、文章を読み取り、持っている知識をもとに考え、考えたことを記述する問題が中心に変わりました。今後は、この傾向がもっと進むでしょう。つまり、①文章を読み取る力、②考える力、③考えたことを書く力の3つが必要となります。

3つの力は、物語文や説明文など、読書を通じて長文を進んで読む習慣を付けることで養われます。

家庭でのテレビやゲームの時間を、いかに読書の時間に切り替えていくか、家庭での工夫が必要です。一番良いのは、家族で皆が一緒に本を読むことです。週に一度でよいので「家族の読書タイム」を作ってみませんか？



さて、子ども読書の日、本校の6年生は、数人のグループで1年生の教室を訪れ、読み聞かせをしてくださいました。



木屋瀬小の6年生の思いやりの姿には、いつも感動します。相手の気持ちや状況を見て、考え、振る舞う姿は本当に素晴らしいです。



朝の登校では、1年生の手を引いて連れてきてくれます。大人を見ると「ほら挨拶をするのよ」と教えてくれます。

雨天時には下足室で靴の入れ方や傘のたたみ方を教えてくださいました。

上級生が下級生のお世話をしたり手本を示したりするよい伝統を、今後も積み重ねてほしいと思います。

シリーズ 子育て応援

～校長の独り言～

中庭の根に木屋瀬の「かくれたチカラ」を見た



歓迎集会で全員が集まったので、木屋瀬小の中庭にある不思議なモノを紹介しました。これは何でしょう？

タコの足のようにも見えるこの不思議なモノは、メタセコイアの「木の根」です。「木の根」は普段は土の中に隠れていて、見ることはできませんが、木と同じくらい大きさの根が地中深く生えていて、校舎よりも大きな体を支えています。木屋瀬の木の根は、子どもたちのためにその一部を見せてくれています。

これが、学校目標の「かくれたチカラ」です。子どもたちも、木の根のように、未来の自分をしっかりと支えてくれる、「土台」を学校の中でしっかりと身に付けてほしいと思います。

「土台」とは、基礎となる学力はもちろん、挨拶や掃除きまりを守るチカラのことです。



子どもたちの未来を信じて、少しの「できる」を、あきらめず、粘り強く積み重ねていきたいと思います。

3年生と校区探検してきました



3年生と木屋瀬小の東側の町並みを探検してきました。学校の横の国道200号線にかかる歩道橋を超えて渡ると、広々とした水田が目に入ります。

水田の向こう側には、三井ハイテックの大きな工場や高速道路が見えます。科学と自然の融合した街並みを見ると、これからの木屋瀬の未来の可能性を感じました。